

# 2018 年度報 街中ゆったりカフェ

## ■ 目次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・ 1  
 2. 活動記録概要・・・・・・・・・・・・・ 1  
 3. 活動記録詳細・・・・・・・・・・・・・ 2  
 4. 美術作品 ka 氏、bun 氏・・・・・・ 6  
 5. 寄稿・・・・・・・・・・・・・ 8  
     Yam 氏・・・8、bun 氏・・・9、to 氏・・・11  
 6. おわりに・・・・・・・・・・・・・ 12      end=12



会場風景

## 1. はじめに

本会は13年11月に発足した「皆さんで楽しむおしゃべり会」です。はやいもので5周年をむかえ、もう数か月たちました。この間、月一回の頻度で種々の話題を持ち寄り、井戸端な談義で皆さんが楽しまれたらと思っています。

ここに、恒例の会報を作りました。この一年を振り返りたく思います。見ていただければ幸いです。なお、会の詳細は、HPを見てください。

<http://buna.html.xdomain.jp/cafe.html>

## 2. 活動実施概要

各月の例会は13:00-15:00、音杉公民館にて実施。以下に記録を掲載します。

第12回定例 3月27日(水) 参加者9人

題目：Hay さん(元鉦山技術者)

：富山の金鉦について

この後、Aok さん：越中米騒動、

Bun さん：椎名道三について

第11回定例 2月21日(木)、4人

題目：Shis さん (サクリスト)

：富山から世界へ～人と自然をつなぐ

第10回定例 1月30日(水)、8人

題目：Gos さん：1000年前の劔岳登頂ルート探索

第9回定例 12月12日(水)、8人

題目：越中米騒動、など

第8回定例 11月29日(木)、8人

題目：さくらのあれこれ、ばんどり騒動

第7回定例 10月31日(水)、9人

題目：女性問題～なぜ女性議員が少ないのか、

第6回定例 9月26日(水)、6人

題目：大山街歩き、A I、若杉地名、他  
 第5回定例 8月21日(火)、6人

題目：山地、講師：gos さん

第4回定例 7月26日(木)、7人

題目：Yam さん：越中ばんどり騒動

第3回定例 6月27日(水)、8人

題目：Ao さん：越中ばんどり騒動、その2、

To さん：山について、その2

第2回定例 5月24日(木)、7人

題目：Ao さん：越中ばんどり騒動、

To さん：山について

第1回定例 4月26日(木)、10人

題目：、音楽とオーディオ技術について



### 3. 活動記録詳細 18 年度

#### 3.1 第12回例会 19年3月27日(水)13:30-15:00

出席者 9人

話題持ち寄り

- ・hay氏 下田の金山
- ・aok氏 絵中米騒動の補足
- ・bun氏 椎名道三について

<1>. 下田金山 by hay氏

・学生時代には鉱山のことを専門としていたと、経歴からお話をいただいた。

定年後は、地元郷里に戻り、農業を営んでいる。最近、ゆつたりかゝの存在を知って、参加している次第。とのこと。

- ・県東部の鉱脈は魚津から大山を経て神岡近辺までいたる。金山にゆかりのある方は広田寿三郎氏。鉱脈は、松倉、魚津金山谷、鉢?、虎谷、下田、亀谷、長棟

尻高山について、台形の山は硬い。岩石の主成分は石英。

・金について。地名で金がつくところが結構ある。例えば、金沢、久金、石金、金谷(金物)など。

・「かね」と「かな」は区別される。「かな」は鉄の意味である。

・富山県内に別所の地名いくつもあり。

別所とは、その場所に金のつく地名がある。

・いくつもの面白い話をされましたが、十分記録できず。

<2>. 越中米騒動 by aok氏

運動会で米騒動という名称の団体競技について、滑川ではあるが、魚津では同だったか、調べた。大町小学校では、整理統合になる以前に、当該名称の競技があった。という。

<3>. 椎名道三 by bun氏

用水路の建設に貢献した椎名氏について、持参のレポートを紹介。詳しくは、皆さんで読んでとのこと。

⇒aok氏が4月の例会で椎名氏が精通していた和算と測量術について話をするという。

#### 3.2 第11日回例会 19年2月21日(木)、13時半~15時

参加者;4人

テーマ:越乃国、富山から世界へ

~人と自然をつなぐ「Bycicle・Tie-Uper」として

生き付く者の使命感

講演者:shisさん

##### ▲講師ノ自己紹介

1990年(h2)生まれ、富山県上市町

##### ▲ルーツ

- ・ヤマトタケルノミコトから名前をもらう。
- ・上市のshis家は室町時代(1000年頃)に祖先(茨城県常陸に宍戸姓あり)から移住。
- ・1725年享保9年から家系図がある。彼が9代目。

##### ▲サイクリング

- ・出会い  
成願寺川で1994年にレースに参加しておもしろさにはまる。
- ・魅力:自由に惹かれる。競争して。  
→いろいろの縛りがあつてが自分が解放された。
- ・クロスリレー 1994-2002に出場。12歳で入賞。
- ・北九州が競輪の発祥の地(日本独自の文化)

##### ▲レース、スポーツとしてサイクリング

中学時代(2003-2005):自転車、水泳部、ウエルズで頑張る。

高校時代(2006-2008):自転車を個人の部活として日々楽しむ。

兵庫国体、秋田国体の出場。大分国体では全国7位。

大学時代(2009-2012):3校からスポーツ推薦(入学)あり。

IPU 大学に進学(岡山)、次世代教育学部、学級経営部門にて勉学。

卒論:父性とジェンダー:性別と性差

人を楽しませたい;コーチ業として幅広い世代の指導(ガバド)を目指したい。

特に、社会学(集団学として)と心理学(個人主観として)、哲学(自分世界として)を勉強。

卒業後(2013-2018)

ガバド業(23-28歳)

苦難の時代:パワハラ、失恋、胃機能不全、

転職(倉庫、GS、YKK,新聞配達)

2019 事業立ち上げ

自転車を通してつなぎ役。

##### ▲社会観、信条、ビジョン

今の社会構造はゆがんでいる。ここに、正常なかわりをもつ。

種々を受け入れるという「価値自由」をもって、

個人主義をこえる社会学を実践する。

ビジョン:人、体、文化の3者をつなぐ

健康

人和 文化

つなぐ(愛) 信頼(タイアップ)、信用(利害)

#### 3.3 第10回例会 19年1月30日水曜

出席者:8人(Gos, tak, to, to, hir, bun, yang, yamz)

内容は、箇条書きにして記すことにした。

(1)NHKBSにて、2018.11頃放映の番組

「剣岳のなぞに迫る」1000年前の剣岳修験道

伍島さんがTVモニター持参で録画を鑑賞

(2)前人未到の登頂:柴崎芳三郎陸軍測量隊

錫杖頭を山頂で発見→1000年前に修験者が登頂

→何処をどうやって登ったのか。

→この謎を解明に実際に登頂ルート踏破

冒険家高橋大輔氏と山岳ガバド多賀谷治氏により。

・高橋氏:ピシクルーツの実在を証明。他多数のことを実証。

・多賀谷氏:剣岳のありとあらゆるルートで登頂。

剣岳のスペシャリスト、ヒマヤにも遠征。

### (3) 山岳信仰

奈良時代に始まり、平安時代に栄える。

錫杖：山岳信仰の修行の再の道具。

邪気をはらう。大地の霊を沈める。

金剛爪から時代判定可能、

当該物は平安時代と断定。

### (4) 登頂ルート

別山ルート：ポプテラート。垂直壁が立ちはだかる

早月尾根ルート：垂直壁ないが水確保できず

推察ルート：立山川からのぼり途中で早月尾根へ

### (5) 推察ルート

川登り→ 菊石(高さ20m)

→川登り、幾度も川を横断、

いくつもの大みな岩をのぼり

→砂子の岩屋、休憩ポイント→ 川登り、

→ゲマザイから沢登りで尾根に出る

→尾根伝いに頂上へ

### (6) 修業

登山中。大きな岩は神谷取り付く。

川水は清める。

邪気をはらい神に対面、神と一体になる。

神の力を得るとか新しい生命を得るとか。

信仰を確かなものにするために登る。

劔岳全体を神としていた。

### (7) 登頂ルートの基点

上市町黒川(今は遺跡で有名)

劔岳を仰ぎ見るウケシヨ

寺院で本来大切に保管の「とっこしよ」が出土。

→それなりの格式があったことの証拠。

### (8) 登頂者一行の感想

なぜ登る；登る途中が試練。

自然のもとで自分と対話できる。

### (9) 会場の声

・3000m 級の山から深海まで一気に駆け下る地形は世界でここだけのよう。

・立山地獄谷では硫黄採掘、夏場は常願寺川に沿って運び、冬場は番場島に運んでいた。

・仙人池の近くの卯ブテンの鉱脈あり。採掘していた。

## 3.4 第9回例会 19年18年12月12日(水)13:30-15:00

参加者：8人

進行：話題持ち寄り

▲aokさん 米騒動

### (1) 米騒動発祥の地はどこ

これまでには、水橋、滑川、魚津の皆さん自分のところが発祥と主張。もともとは水橋、クーズアップは魚津となっている。

### (2) 上市町では

・上市でも米騒動あり。9月22日に150人、2軒の米屋に談判。神谷氏が結構発掘し記述している。

・横法音寺の大地主「細川しょうざえ門」は18ヘクタの水田を

所有する大地主であり、質屋業や鍋貸し業などを営む。後年、機織工業に目をつけた。

(3)滑川では 大地主の金川氏が矢面となった。

▲gosさん キノコ、金山、他

### (1)きのこ

・見晴らしよく雑木林伐採。その帰りにきのこ取り。

・山のきのこ(なめこ)は、味が濃い。

・しいたけ。半日でも干すとおいしく栄養価高い。乾燥させて水で浸して、一番涼しいところで寝かすとおいしくなる。

### (2)山のルール

草を縛って印をつける。ここはもう入れないというサインである。山は誰が入ってもいい。小作の人は自分の食事分を確保して、余れば街にでて売る。

### (3)鳥獣被害

いのしい、さるについて。抜本的対策はおおかみ導入か。

### (4)金山

・金山については絵巻にされ後世に伝わっている。

・オリジナルは一個のみ、これがあちこちに模写し、全国に伝わる。

・佐渡金山を世界遺産にと委員会がまとめる。

・下駄金山では加賀藩に記録がある。

・江戸古地図は公開している。貴重な資料。

・佐渡金山では、工夫の寿命は40年。過酷な労働と鉱毒か。鉱毒の記録は残っている。

・下田金山では、水調査や小動物調査もいる。

### (5)ほか

・劔岳については、頂上には平安時代の杓じょうがあった。

・黒川・護摩堂のところには、平安時代に大きな寺があった。山に登るには黒川から。

・神神が降りるところには、菊石や岩屋がある。

## 3.5 第8回例会 19年11月29日(水)、13時半~15時

場所：音杉公民館

参加者；8人

テーマ：さくらのあれこれ、ばんどり騒動

講演者：takさん、他

▲コシノフユサクラについて by takさん

冬場に咲く桜はそもそも珍しく、しかも地元上市にも結構咲いているとのこと。講師は、桜の枝を持ってこられ、皆さんで鑑賞いたしました。

講師は10分程度で紹介とおられたが、スピーチに熱が入り、1時間20分もの大熱弁となった。

今回は、スライドなしであったにもかかわらず、桜の話で大いに盛り上がった。

## 3.6 第7回例会 18年10月31日(水)、13時半~15時

参加者；9人

テーマ：女性問題~なぜ女性議員が少ないのか、他

講演者：yamさん

▲表題にある通り、女性の働き方改革の観点も含めて、女性問題について、声を大にしておられた。

女性進出が定着しているものの、まだまだ男社会であり、特に政治の世界は何ともしがたい。これについて、yamさんの現状分析を含め、今後どうしてか話が語られた。

### 3.7 第6回例会 18年9月26日(木)、13時半～15時

参加者；6人

話題持ち寄り

大山街歩き、AI、若杉地名、他

#### ▲大山の街歩き by to(wakasu)氏

最近、プラタモリが人気であり、各地でゆっくりと街を歩きましょうというのがブームになっている。たまたま旧の大山町で、プラタモリののりで街歩きがあった。結構面白かったとのこと。

#### ▲若杉の地名 by ao氏

杉の木にちなんでいるとのこと。

ちなみに、音杉は若杉と法音寺の間だから音杉になったとのこと。

#### ▲AI

AIについて、仕事を奪うのではないかと戦々恐々の今日。AIとはなにか、将来はどうなるのか、話し合われた。

### 3.8 第5回例会 18年8月21日(火)、13時30分～15時

出席者：6人 (ao, gos, toyuwa, towakas, hir, yam)

今回は話題持ち寄りということであったが、gosさんの金山にまつわるいろんな話を中心となった。

#### ▲下田の金山

・2013年に富山大の先生が「下田の金山」について論文を作成された。

そこには、金山、貨幣などについて述べられている。

##### ・貨幣(金)について

これは、信玄がつくった制度といわれている。

江戸時代には、下田から加賀藩に金を納めるという記録が残っている。

##### ・金について

金には、山金と砂金の二種があり、日本では山金がほとんど。

##### ・砂金になるまでの過程

山金が自然に次第に洗練された。

##### ・金の元素

中性子が爆発すると、ひとつにブラックホール、いまひとつに金が出来るといわれている。

##### ・540年に百済から日本に金がわたってきた

##### ・武田が下田に来ていて下田を発掘。

そのご1574年に愛の山、鷹巣山で金山を発見。

##### ・神社

前田藩の時代には神明社が廢れる。下田には今は八幡社。市姫社は上市に移る。

獅子舞 下田から北島につたわり、その後稗田にうつる。

##### ・下田からの運搬

鉱石を釈泉寺まで徒歩、上市まで馬車、その後は船。結局は神戸まで運搬。日立で洗練した。

##### ・当時の精錬法

鉛に溶け込ませて抽出。のちに水銀アマルガムにして抽出。

##### ・産出量

下田は3750t。佐渡は38t。

#### ▲Aokさん、越中米騒動について補足

越中米騒動の報道で活躍した井上氏の当時の本をもとに、なぜ騒動が起きたのかを含めて、当時のことを(次回に)検証する。とのこと。

### 3.9 第4回例会 18年7月26日(木)、13時半～15時

出席者：7人 (ao, gos, toyuwa, towkasu, hir, bun, yam)

▲ 前回のぼんどのりのテーマのときに、立山町史にも割合詳しく出ているとのことであった。そこで、立山町出身のyamさんが、ぼんどり騒動の歴史的な意味

づけも含めて解説することになり、今回を迎えた。

話の構成は以下の通りである。

##### ・意義：明治政府初期の農民一揆として位置づけ

・騒動概説：各資料の説明、権力側の記録よりも民衆側の記録として新聞記者の記事が貴重。

##### ・一揆の模様：時系列で詳細

##### ・騒動の原因

##### ・騒動の結末

##### ・その後

#### ▲ぼんどり騒動

説明は資料に基づいて行われた。

#### ▲米騒動

ぼんどのりの後に、米騒動について深掘りをした。

・米騒動について。米騒動は暴動ではなく、あくまでの民衆の抗議行動である。

##### (1)米騒動は暴動でなかったのか

ぼんどり騒動では、過激な騒動はつぶされてしまうという教訓が米騒動に生かされたのではなかろうか。

##### (2)抗議行動

・民衆蜂起として米騒動についても話し合われた。そこでは、次のようにその本質を明確化されていた。

・当時は生活が苦しいとして、役所に訴え出た。米屋にも働きかけ、一部の米屋は高騰した米価格を大幅に下げた。販売した。(お助け米を抛出したかどうかは不明)

・大野家の家訓や家法では天保飢饉のとき以降、人には施しをすべし、とある。

##### (3)救済制度

救済制度について、明治初期には魚津議会で救済制度が出来ていた。

(4)米騒動は穏便な行動であった。しかし、新聞記者がセンセ

ーショナルに書いた記事を全国に伝えた。各地の米騒動は、暴動となって頻発した。

### 3.10 第3回例会 18年6月27日(水)、13時半～15時

出席者：8人

(Ao, Gos, Tak, To(湯), To(杉), Hir, Bun, Yam)

次第(進行役と題目)

：第一部 To(湯)：山について、その2

：第二部 Ao：越中ばんどり騒動、その2

#### ▲To:山について、その2

先月にお見せいただいた屋山の写真を今回も駆け足で紹介されていた。やはり、山は美しい。特に、劔岳については、三窓や小窓、大窓の魅力を語っておられた。会場は、うっとり感で満ちていた。

進行役の山への思いも語られ、特に道のない山が好きとのことでした。

#### ▲Aoさん：越中ばんどり騒動、その2

1869(明治2年)におこったばんどり騒動について、参加者3000人が定説となっている。3000人は舟橋の無量寺に集まったのか、寺のキヤからはとても無理。近く広場に集まったのか、そんな疑問に答えておられた。

参加者3000人は確かであろうが、無量寺では幹部のみがあつまったとか、推察もできるが、やはりわからないとしかいえない。

Ymaさんから井上江花の資料をもとに、その年には米作が凶作だったことが騒動の原因のと披露されていた。

#### ▲▲ 詳細版 aoさん、越中ばんどり騒動

1869(明治2年)に騒動が起こる。そこを指導したのが塚越村の忠次郎。嘆願書を村役人に送ったが返事なし。滑川の役人？が貧乏人はこじきの施設に入れといったという。そうこうしているうちに、騒動となったという。

騒動は、弓庄の結城家、新堀の屋敷に入り、滑川まで到達、合流。そこから魚津に行く。魚図の相馬家に入る。

黒部に行き、立ち寄り、入善に入る。青木村では、六本松にて逮捕される。新川軍の戸村の役人をすべてやっつけるために、船橋から泊まで向かった。二万人が一揆。無料時を出発から32000-3000人。

なお、江戸時代には寒冷期が続いたために、凶作による暴動が起こった。

△ 打ちこわしの家は合計58,となった。59件を壊したという。11月3日に。忠次郎はその後金沢に送られ処刑される。

塚越村では、石碑を建てる。村民は反対したがようやく建

設。忠次郎をしのんだ義人の碑が建立。宮崎忠次郎と明記された碑は後年になってからである。

△ 村民への影響は;忍耐、正義感、行動がある。詳しくは村史には記載されず。

△ 舟橋村の図書館の人の対応が上市と違ってすこぶる良かった

#### ▲次回

7月26日(木)13時半～15時、音杉公民館にて。

進行役：Yam、

題目：ばんどり騒動、井上江花の文献から

Aokさんの後を受け継いで、なぜ起こった

のか、社会の対応は、等について話題提供。

### 3.11 第2回例会 18年5月24日、13時半～15時半

出席者：7人 (Ao, Gos, Tak, To(湯), To(杉), Bun, Yam)

次第：第一部 Ao：越中ばんどり騒動、

：第二部 To(湯)：山について

#### ▲Aoさん：越中ばんどり騒動

1869(明治2年)に(百姓一揆のような)騒動が起こった。

指導者は新川地域塚越村の宮崎忠次郎。騒動は塚越村から始まり滑川、魚津、泊まで行動したという。

忠次郎がなぜ立ち上がったのか。どう運動を指導したのか。といったことから始まり、彼の行動が後世にどう評価されているかまで、話をされた。

持ち時間45分を越えたので、次回にもちこしとなった。

#### ▲To:山について

山好きで、劔や立山をはじめ、大倉山や浅生の釜池などの写真で風景を堪能した。特に皆さんにとっては仙人池からの劔の姿。池に映し出された山とセットの雄姿は感動的である。

このセッションも、時間の関係上、次回に回すこととなった。

#### ▲次回

6月27日(水曜)13時半から15時まで、音杉公民館にて。

次第：Ao, To

### 3.12 第1回例会 18年4月26日(木)、13時半～15時

参加者；10人

テーマ：音楽とオーディオ技術について

講演者：gosさん

▲いい音質の音楽が聴けるのも技術進歩のおかげである

とのこと。新旧のオーディオの製品やモニター・パソコンを持参されて、皆さんで、技術の話を聞き、音楽の良さに酔いしれておりました。

## 4. 美術作品

### 4.1 Kat 氏作品

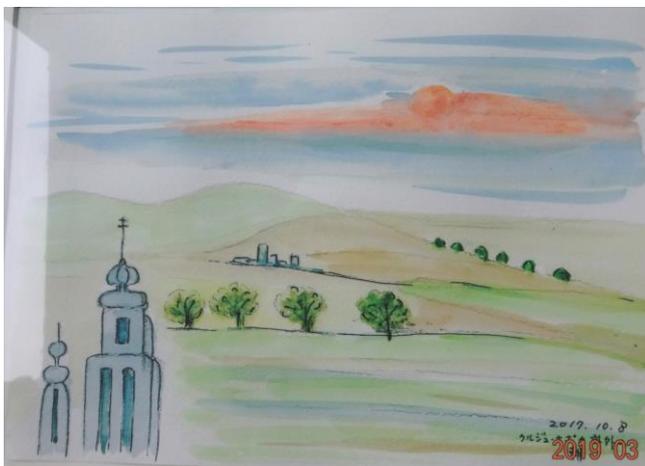


フランス西部  
ラ・ロッシュェル港

ベルギー  
ルージュペギン修道院



ルーマニア  
クルジュ郊外の朝



ドイツ ミューヘン梗概  
シュタルン湖の朝

スイス ソーリオ村



4.2 bun 氏作品



## 5. 寄稿

### 5.1 yam 氏

「未来を拓く女性と労働組合」シンポジウムに参加して 2019. 1. 26～27

山口和子

問題意識も知識も乏しい私には場違いではと思いながら参加しましたが、最初の経験交流会で、その思いが徐々に変わっていきました。私の班は実践・経験豊富なメンバーが集まっていて、彼女たちの具体的で力強い話にどんどん引き込まれていきました。

助けてくれるはずの労働組合が、女性の様々なハラスメントの訴えに対応しないで、女性ユニオンに丸投げするとは！？「労働運動は当事者ファーストでない！」従来労組の男性たち自身が問題とは、呆れることばかりです。女性差別はどこにも根強く残る許し難いものだと改めて思いました。

「当事者こそが専門家であり、エンパワーして社会の構造をひっくり返そう！」こんな頼もしい発言にブラボー！！一人ひとりのスキルアップや居場所づくりなど、具体的な解決策も大変参考になりました。

次の組織化ワークショップでは、「それぞれのユニオン・地域の人が出会いエンパワーする・楽しめる場をつくろう」と、全国各地のご当地観光+αなど、開催地の活性化にもつながる会を企画したらいいと話がどんどん弾みました。なんと次回は「体験交流会 in 富山」に決まり！？責任重大。

2日目の分科会「正社員でない働き方」では、当事者の声を聞き、人権問題としても早期解決すべきだと思いました。プロブレムツリーでの問題分析法や後からのキャッチコピー作りのまとめ方など、とても分かりやすくてよかったです。今後使ってみたいです。その他、パネルディスカッションを含め全体会など全てが大変有意義でした。たくさんの素晴らしい方との新たな出会いに感謝です。

岩嶺寺雄山神社の墓股かえる また

文山 純子

大山歴史民俗研究会会員の方より『いわさか』第66号岩嶺寺前立社壇平成30年1月1日発行の新聞をいただきました。新聞に雄山神社前立社壇本殿（国指定重要文化財）の墓股について書いてありました。さっそく見に行きました。遠くて高くて良い写真がとれなくて残念です。神社の方に「岩嶺寺雄山神社の文化財」のしおりをいただきました。しおりに墓股の絵がありましたので紹介します。



かえる また 墓が股を広げたよう  
墓股 な形に由来します。  
もとは構造部材でしたが、時代  
が降ると次第に装飾としての役  
割が強くなっていきました。

大山歴史民俗研究会会員の方が太田南町の刀尾神社にも墓股があると云われたので、見に行きました。「違い鷹の羽」の墓股でした。富山県立図書館に「刀尾神社由緒誌」昭和48年11月1日発行に次の事が書いてありました。

現在の本殿は『一間社流造三方椽腰組上げ』の地方としてはまれな総檜造りの本殿でこれは当村の名工河上与三郎氏が明治二十二年に再建製作したものでまた拝殿は明治四十四年に同じく当村の名工深山文吉氏が棟梁をつとめて立山古来の拝殿様式であった『切妻流造り』の室町時代に建てられた岩嶺の雄山神社の旧拝殿を手本として造建された現在の岩嶺の雄山神社拝殿は皇紀二千六百年記念御昇格の際に建替えされたので当社の拝殿は旧立山信仰の面影を偲ぶことができる

刀尾神社の屋根瓦にも違い鷹の羽がついていました。横には違い鷹の羽の屋根瓦等置いてありました。刀尾神社のお正月・お祭り・その他の行事には芦嶺寺雄山神社の神主様が来られます。

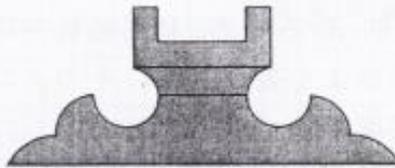


### 墓 股 かえるまた

社寺建築で柱の頂部をつなぐ頭貫と軒下の桁との間や、梁上に置かれる部材。カエルが股を開いたような形をしているのでこの名がある。古代の墓股は一木の厚い板でつくられ、梁の上に置かれて上の材料を受ける構造材であったが、平安時代後期から頭貫と桁の間にも入れられ、装飾化する。このときから輪郭を左右対称に二本の木でつくられたが、やがて一木をくりぬいてつくられるようになり、内部に飾りとして唐草が入れられる。中世になると内部の飾りが多様になり、近世になると動植物が彫刻されて華麗になる。厚板だけのものを板墓股、内部をくりぬいたものを本墓股という。 （工藤圭章）

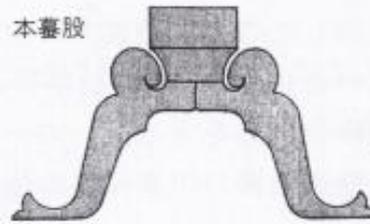
#### 墓股

板墓股

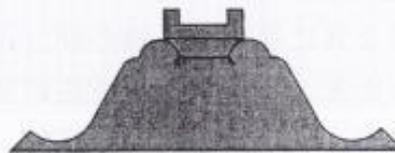


奈良時代

本墓股



平安時代



鎌倉時代



鎌倉時代

**1. はじめに** 「富山の薬は富山でなければならない」というのが 富山県民の思いである。ではなぜ薬は富山なのか、他の地域でも本来はいいはずである。このように考えると製薬のルーツを知りたくなるのは当然である。たまたま、製薬について種々調べるチャンスがあったので、ならばレポートしようと思い本稿を書いた。論点は、製薬技術、製薬原料、販売システムであり、これらが富山の薬を特徴付けたとして展開する。

**2. 富山の風土** あちこちで私目「富山はこうです」と言い回っている。

**2.1 自然環境** 富山では 3000m級の山脈と深度1000mの富山湾トラフがあり、平野は割合狭く扇状地地形をなしている。また、高さ方向には温帯から寒帯までの幅広い気候帯があり、豊富な降水により森林を含め一大穀倉地帯が形成されている。

**2.2 産業** 産業といえば、昔から、農業、薬業がある。地理的にいえば、日本(列島)の中心は富山である。この富山が日本海交易には地の理ということで一番適しており、米を交易品に出来るほど裕福な地ということもできる。

実際、日本海交易として富山からは米を北海道に、逆にニシンや昆布が富山に来ている。富山は地元の幸に加えて北の幸にもめぐまれ、そのおかげで食材が豊富といえる。(なお、富山米について：富山米が美味しいから北海道に渡ったのではなく、実際には北海道でしか売れなかったから。米騒動発祥の地が富山であった要因のうちのひとつといわれている)

**3. 富山の薬 3.1 富山、製薬の発展** 製薬には原料と技術が必要である。富山は両方の要因をうまくクリアしたからこそ発展したものと見える。

- ・製薬起源については、諸説あり、立山の修験者が持っていた薬(今でいう薬かどうかは不明)が技術的下地となったとか、戦国時代に火薬製造などで薬技術の下地あったとかいう説があるが、詳しいことは分かってはいない。

- ・薬の原料について、和漢薬の原料(漢薬)はもともと日本にはなく、中国から輸入に頼っていた。これは富山にとっては好都合であった。北前の交易が薬の原料調達に一役買っていたからである。

- ・技術について。製薬には原料に加えて製薬技術が必要であり、富山藩前田公が 1683 年に岡山から技術者(万代常閑)を呼び、薬「反魂丹」が生産されるようになった。これが、富山の薬のルーツである。

- ・富山の薬が全国的シェアをえるようになったのは、独特な販売方法のおかげである。これにはかつての修験

者が全国各地に越中物を配っていたシステムがそのまま利用され、かつ近世になってから「先用後利(先に使用し後払い)」の制度で固定の顧客が全国に確保されるに至った。繁栄はその時からである。

**3.2 世にデビュー** 富山藩前田公が江戸城で大名の腹痛に使ったことにより世に広まったとされている富山の薬伝説は、多分に後世の作り話という。富山の経済基盤が磐石であったのは、加賀藩に属していたおかげであるが、そうした話が富山の薬に必要なだったということだけは間違いなさそうである。

**3.3 交易**: 北前船交易 交易について、(北前の)交易ルートは加賀藩の交易の一環として加賀藩の富山から北海道までであり、富山からは米が輸出され、北海道の海産物が輸入されていた。実際の交易の現場である湊については、加賀藩の湊である岩瀬(富山市北)は大変にぎわい、富山藩の湊である水橋(富山市東)は貧相であったといわれている。(加賀藩内にある富山地域のごく一部が富山藩) 一方、富山から西へのルートについては、若狭からの陸路により京や大阪へつながるルートと、下関経由で大阪まで行く海上ルートがあった。両ルートとも盛えていた。

**3.4 薩摩による密貿易** 薬業の社会性の研究によれば、薩摩は清との密貿易をしており、清→琉球→薩摩→新潟→富山のルートで漢方薬原料が国内に入り、最終到着地が富山であり、中継地に大阪があったという。富山が薬都は当然であるが、中継地大阪も荷下ろし場として、薬種中買仲間が店を出して製薬が始まった。大阪の道修町がそうであり、武田薬品(1781年)や塩野義製薬(1878年)の発祥の地となっている。

**3.5 薬産業** 富山藩は薬の専売による巨万の富を得たとされ、本家(加賀藩)をしのぐ財力を持つに至っている。例えば、幕末期 1861-1864 の 4 年間で 20 万両(今の 240 億円)の売り上げであったという。

**4. 今後の富山の薬、まとめとして** 西洋医学重視政策により 1870 年「売薬取締規制」が制定され、富山の薬が大幅な規制を受けるようになった。その後、1943 年と 1948 年の薬事法を経て製薬の完全オートメ化の要件が富山ではクリアされるに至り、1960 年の薬事法で売薬(富山の薬)が業としてやっと認められた。が、苦難の歴史が今も続いている。また先用後利のシステムが時代に取り残されざるのみである。このように、富山の薬はいままさに正念場にあるといえる。

## 6. おわりに

とにもかくにも、あっというまに5周年を迎えての今日です。今年度は結構参加者が多かったのが印象的です。毎回7-8人の参加はかつてないことです。これもひとえに皆様方のおかげかとぞんじます。感謝申し上げます。今後とも、この語りを続けていきたく存じます。皆様、よろしく願いいたします。これをもちまして、まとめいたします。